

目的 年々かきの喫食率が低下する傾向にあるといわれるところから、一般消費者を対象とし、生かきの心理的意識を把握し、今後のかき利用普及の一助とするために本調査を行った。

方法 調査期間：1981年8月～9月。調査地域：広島湾沿岸を中心とした中・四国の一部。対象：前期地域に居住する20才以上の男女1000人。有効回収率：74%。調査内容：①好き嫌い左右する要因および度合は、予備調査においてかき料理の好き嫌いに対する理由としてあげた語句についで5点法。②イメージテストはS・D法により評定尺度は7段階を示した。

結果 全体的にかきの嗜好度は低いと思われた。かきは少しぬるぬると、生ぐさいが、やわらかく海のかおりがして風味があると思われている。しかし1980年9月～1981年4月の間をかきの喫食期間として調査した結果、この間利用したグループはやわらかく海のかおりがし、風味があると答える度合が高く、舌ざわりがよく栄養的であるとと思っている。利用しないグループは生ぐさくぬるぬるとし、内臓が気持ち悪く、食中毒が気になると思っており、これらの点が嫌いといわれる理由のように思われた。